

評価結果案（総括）(IV章第1節)

	損失の状態		損失の要因(評価期間中の影響力の強さと現在の傾向)							複合的な要因		
	本来の生態系からの損失の大きさ	1950年代後半からの損失の大きさと現在の傾向	第1の危機		第2の危機		第3の危機		温暖化の危機			
森林生態系			○森林面積はほとんど変化せず、森林蓄積は増加。 ○自然性の高い森林(人工林以外の森林)の規模が縮小し、影響は継続。改変のない植生は国土の2割にとどまる。現在は、大規模な改変はない。 ○二次林・人工林の管理が減退し生態系の質が低下しつづけている。 ○高山帯は温暖化に対して特に脆弱であり、影響事例が報告されている。 ○近年、全国的なシカの分布・個体数の急速な拡大が森林の植生に顕著な影響を及ぼしている。 ○一部の地域や一部の分類群で分布や個体数が減少傾向。		■開発・改変 ○自然性の高い森林(人工林以外の森林)の伐採・人工林への転用 ○都市周辺等における宅地、交通用地、農地への転用 ■直接的利用 ○評価期間中、狩猟の影響は大きくない。 ○観賞・園芸用の動植物の捕獲・採取 ■その他 ○登山道の過剰利用		○二次林(薪炭林)における薪炭採取等の利用の縮小 ○人工林における間伐・下草刈等の管理の不足。		■外来種 ○森林や山岳における外来種の侵入・定着・拡大 ○森林病害虫(マツ枯れ、ナラ枯れ)の被害		○気温の上昇等(高山植生の衰退、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ)	○シカの分布・個体数の急速な拡大・増加による植生等への影響
農地生態系	—		○農法の変化や農地整備により生態系の質が低下し、影響は継続。一部の種の分布や個体数が減少。 ○農薬や化学肥料の影響は、近年は低減しているとみられる。 ○農地・二次林は利用の縮小により生態系の質が低下。 ○農地・二次草原は規模が縮小。 ○ため池などで外来種の影響が顕著。		■開発・改変 ○都市周辺等における農地、ため池等の宅地等への転用 ○農法の変化や農地整備 ■水質汚濁等 ○農薬・化学肥料の不適切な使用による影響		○二次林(農用林)・二次草原における肥料採取等の利用の縮小 ○農地における耕作放棄 ○ため池の減少		■外来種 ○農地、水路、ため池等における外来種侵入・定着・拡大(アライグマ、ブラックバスなど)		○気温の上昇等(種の分布や生物季節の変化のおそれ)	○農作物や家畜・家禽の地方品種等の栽培飼育の減少
都市生態系	—		○農地・林地の転用により緑地面積は減少傾向。都市公園の面積は増加。 ○都市河川の水質は改善している。 ○近年、緑地に依存する一部の生物は都心部で分布を広げている。		■開発・改変 ○都市内の緑地(農地や林地)の宅地への転用 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による都市河川の水質の悪化 ○大気汚染・光害・ヒートアイランド現象	—	—		○影響は定かではないが、外来種は拡大する傾向にある。		○気温の上昇等(種の分布や生物季節の変化のおそれ)	—
陸水生態系			○湿原や湖沼は、開発によって規模を縮小し、影響は継続。 ○生活排水や産業排水により水質が悪化したが、改善傾向にある。 ○全国的に河川の人工化によって、生態系の質と連続性が低下し、現在も影響は継続。 ○陸水生態系は外来種に対して脆弱であり、ブラックバスなどが大きな影響を及ぼしている。		■開発・改変 ○湿原の農地や宅地への転用 ○湖沼の埋立による農地や宅地への転用 ○河川・湖沼におけるダムや堰の整備、水際線の人工化、川砂利の採取による河床低下等 ■直接的利用 ○観賞用の動植物の捕獲・採取 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による河川・湖沼の水質悪化	—	—		■外来種 ○河川や湖沼における外来種の侵入・定着・拡大(ブラックバス、ブルーギルなど) ■化学物質 ○分解されにくい化学物質の生物の体内への蓄積		○気温・水温の上昇等(河川・湖沼における鉛直循環の乱れ、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ)	—
沿岸・海洋生態系			○埋立や海岸の人工化によって、自然海岸が減少し、影響は継続。 ○埋立等の開発により干潟・藻場、サンゴ礁の規模が縮小し、影響は継続。 ○有用魚種の資源状況が近年悪化。 ○地球温暖化によるサンゴ礁その他の生態系への影響が指摘されている。 ○砂浜海岸等の海岸浸食の加速		■開発・改変 ○自然海岸の人工化、干潟・藻場・サンゴ礁等の埋立 ○海砂の採取 ■直接的利用 ○一部では回復力を上回る漁獲 ■水質汚濁 ○生活・産業排水による閉鎖性海域における水質の悪化	—	—		■外来種 ○食用の持ち込み、バラスト水・船体付着による沿岸域への外来種の侵入・定着・拡大 ■化学物質 ○分解されにくい化学物質の生物の体内への蓄積		○気温・水温の上昇等(高水温によるサンゴの白化、海水の減少、海洋の酸性化のおそれ、その他種の分布や生物季節の変化のおそれ)	○サンゴ食生物の異常発生 ○藻場における磯焼け
島嶼生態系			○島嶼を特徴づける固有種の生息・生育地などが開発によって縮小し、影響は継続。 ○島嶼生態系は外来種に対して脆弱であり、マングースやグリーンアノールなどが大きな影響を及ぼしている。 ○これらによって多くの固有種が絶滅を危惧されている。		■開発・改変 ○森林から農地、宅地等への転用 ○河川・海岸の人工化 ○農地等から浅海域への赤土の流入 ■直接的利用 ○観賞用の動植物の捕獲採取	—	—		■外来種 ○島嶼への持ち込み、貨物付着、ペットや家畜などの逸出・放置による外来種の侵入・定着・拡大		○気温・水温の上昇等(高水温によるサンゴの白化、種の分布や生物季節の変化のおそれ)	—